



写真 ヒガシニホントカゲの幼体（かわはくで撮影）

かわはく No.50

CONTENTS

平成26年度夏期企画展案内 「ふしぎ・かっこいい 埼玉と日本の爬虫類」……	2
爬虫類展サテライト展示案内「写真で見る琉球列島の爬虫類」……	3
かわはくだよりをふりかえって ～創刊50号特集～……	4
特別展予告「荒川流域の鮎山と産業 ～地下資源の利用と人々の暮らし～」……	6
かわはくGWまつり報告……	7
コラム 夏の思い出……	7



平成26年度夏期企画展案内

ふしぎ・かっこいい 埼玉と日本の爬虫類

会期：平成26年7月12日(土)～9月7日(日)

爬虫類は水場を離れて陸上だけで生活することが可能になった初めての脊椎動物です。一般的にはヘビ、トカゲ、カメ、ワニなどがよく知られ、大型種のニシキヘビ、ワニ、オオトカゲ、ゾウガメなどは動物園でもおなじみの動物です。

日本に生息する爬虫類は大きく2つの分布域に分けられます。ひとつは北海道・本州・四国・九州などの島々で形成する日本列島において広域に生息する爬虫類14種(外来の疑いのある種を含み、外来種2種は除く)で、もうひとつは沖縄島、奄美大島、西表島などの島々が並ぶ亜熱帯気候の琉球列島(南西諸島)に生息する爬虫類です。この地域は独自の生態系を持ち、日本列島とは全く違う固有の種が生息し、貴重な種も生息しています。

本展示では第一に、埼玉県に生息する爬虫類に注目します。その中で、カナヘビ、ヤモリなど、身近な爬虫類がどれだけ分布しているかをテーマとした企画が「みんなでつくる埼玉県の爬虫類マップ」です。一般から受け付けている県内における爬虫類の生息状況を学芸員の調査結果と合せて展示します。応募は展示が終わるまで受け付けておりますので、展示期間の最後まで情報が更新されます。情報がありましたら是非お寄せ下さい。

爬虫類の展示に関しては、全長最大2mにもなるアオダイショウなど5種あまりを生体で、ジム

グリ、ニホンマムシ、シマヘビ、ヒガシニホントカゲ、ニホンイシガメなどを標本で紹介します。また、普段目にする機会の少ない卵の標本も見る事ができます。同時に天敵を剥製で展示、爬虫類の生息する環境や生態について解説します。

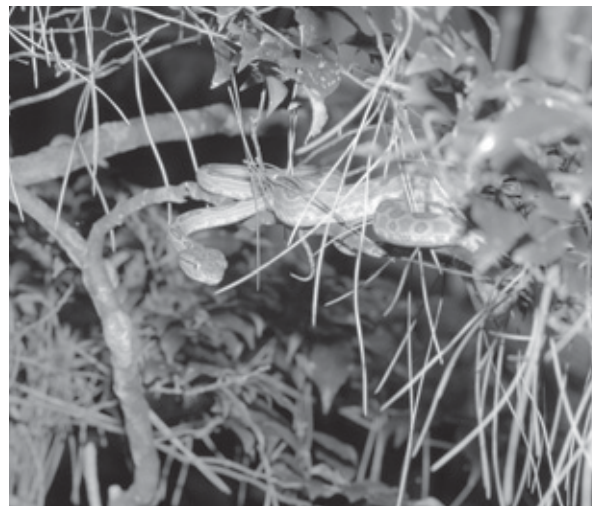
第二に、琉球列島に生息する爬虫類を紹介し、日本列島との違いを比較します。日本列島には生息していない多数の種はパネルを中心に紹介し、島によって色彩の違いがあるなど、爬虫類にスポットを当てることで、琉球列島の多様な自然が見えてきます。

第三に、ヘビと人との関わりについて紹介します。ヘビは、気持ち悪い・怖いなどと忌み嫌われがちですが、信仰対象にもなるなど人の生活に近い存在といえます。また、カメは不老長寿の象徴として親しまれ、古くからペットとしても飼われる存在です。一方、ペットとしての爬虫類は様々な種が飼育されていますが、野外に遺棄され定着し、外来種問題も発生しています。また毒を持つマムシやハブは人の悩みの種です。特に琉球列島に生息するハブは高い攻撃性と強力な毒を持ちます。被害状況や対策などにふれ、考察します。このように爬虫類と人との関わりについて、様々な角度からとらえ、考える機会とします。

(研究交流部 藤田宏之)



アオダイショウ(かわはく)



木に登ったハブ(鹿児島県 徳之島)



関連イベントもあります

無料で参加できますので
お気軽にどうぞ!

爬虫類のお話①

「埼玉のヘビにくわしくなろう」

アオダイショウなど、埼玉県でみられるヘビについて生体を使って詳しく解説していただきます。ヘビの生態、行動なども解説していただきます。

日時：8月2日（土） 11:30～12:00
13:30～14:00（予定）

講師：三保尚志氏（日本蛇族学術研究所）

定員：各回30名

ヘビ皮を使った楽器、三線さんしんにふれてみよう

沖縄や奄美諸島で親しまれている郷土の楽器三線について、学芸員の解説を交えながらふれてみる体験です。

日時：8月10日（日） 11:30～12:00
13:30～13:50

各回定員：15名

爬虫類のお話②

「爬虫類のふしぎ」

大人と子供で色の違うトカゲのふしぎ、爬虫類のからだの不思議など爬虫類に関する様々な不思議を、生体を使ってやさしく解説いただきます。

日時：8月24日（日） 11:30～12:00
13:30～14:00（予定）

講師：大淵希郷氏（日本科学未来館）

定員：各回30名

学芸員による爬虫類のお話

学芸員がアオダイショウやシマヘビなどの生体を使って解説します。

日時：8月13日（水）～15日（金）
13:30～13:50

定員：各回20名

どうぞお楽しみに!

爬虫類展サテライト展示（スロープ展示）案内

～写真で見る琉球列島の爬虫類～

琉球列島は日本の南西部である種子島（鹿児島県）から与那国島（沖縄県）まで約1,100kmにおよぶ弧状に連なる島々の総称で、南西諸島とも呼ばれています。亜熱帯の森がはぐくむ日本列島とは異なる独自の生態系を持ち、メディアでもたびたび紹介されるヤンバルテナガコガネ、ヤンバルクイナ、アマミノクロウサギ、イリオモテヤマネコなど琉球列島でしかみられない貴重な生きものが多数生息しています。

今回は企画展「ふしぎ・かっこいい 埼玉と日

本の爬虫類」のサテライト展示として、琉球列島の爬虫類に注目しました。強力な毒を持ち、昔から人々を悩ませているハブは色彩の異なるものが生息しており、金・銀・茶・アルビノ（白っぽい色）の色を紹介しています。そしてその他のヘビ、トカゲ、トカゲモドキ、ヤモリ、カメの写真を展示しています。日本列島ではみられない色彩の爬虫類や国指定の天然記念物であるリュウキュウヤマガメなど、多様な爬虫類の姿を見て頂きたいと思います。（研究交流部 藤田宏之）



サキシマカナヘビ（沖縄県 西表島）



リュウキュウヤマガメ（沖縄島北部）



かわはくだよりをふりかえって

～創刊50号特集～

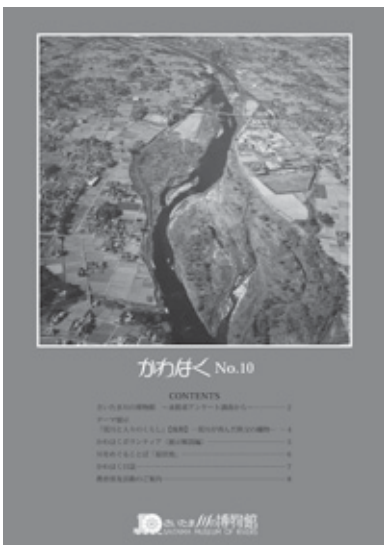
川の博物館がオープンしたのは1997年8月1日です。そしてかわはくだよりが創刊されたのが翌年の3月でした。創刊号は16ページ構成で白い表紙、No. 2からは8ページで緑の表紙という現在のスタイルとなっています。創刊号を見ると、公募の結果かわはくマスコットの名前が決まったことや展示の案内・コラムなどが掲載されています。また大水車の大きさは、設計を進めている時に直径が22mのものが青森県に建設されたニュースが入ったため、何とか日本一を、ということで23mの大水車を実現したことが書かれていました。その大水車も今は東日本二になりました。誰しも作るならば日本一を、と考えるのですね。他にも、現在は交流員と呼んでいる展示解説員はプレリーダーと呼ばれ、創刊号と2号でその声を紹介していることにもかわはくの歴史を感じます。

記事を見ていくと、いくつかのシリーズがあったことがわかります。創刊号からNo.10までは「川をめぐることば」という言葉の解説がありました。「川と河と江」、「瀬と淵」、「河畔砂丘」などの言葉がとりあげられていました。その中で目を引いたのがNo. 7（2003年3月）に掲載された「A.P.とT.P.」です。Aは荒川、Tは東京湾を指し、Pはオランダ語のPeilで基準面を意味します。日本の水準原点は東京湾平均海面（T.P.）を元に決まっていますが、そのT.P.を最初に



定めたのは明治初期のデータで隅田川河口付近、つまり当時の荒川河口付近で測定された水位だったということが解説されていました。そういう訳で「標高の生みの親は荒川だった！」という副題がついています。水準原点は基本的に不変ですが地殻変動があった場合は改訂することもあります。No. 7が発行された時には水準原点が一度改正されてT.P. +24.4140mとなったということでしたが、2011年の震災後に改正があり、現在の水準原点はT.P. +24.3900mです。

かわはくだより創刊以降、少し間をあけながらも長く続いていたのが「身近な水紀行」という紀行文スタイルの水辺紹介シリーズです。「三芳町こぶしの里」に始まり、少し足を延ばして「新座市妙音沢」、秩父市の武甲山伏流水として平成の名水百選になっている「岩の隙間から湧き出す不動の名水」、寄居町の「風布川・日本水」などで、実際に訪れた時の様子が綴られており、



かわはくだより表紙より（創刊以来、年3回発行）



その時の雰囲気はただよってきます。No.21には「ムサシトミヨの里 元荒川源流を訪ねて」という記事があり、ムサシトミヨやその生息地、そして保護活動についての紹介がありました。この記事が書かれた2004年から当時の様子はおそらく大きくは変わっていませんが、保護活動が評価された嬉しいニュースがあります。熊谷市にのみ生息が確認されているムサシトミヨを保護する活動が2013年12月に日本ユネスコ協会連盟の「プ

ロジェクト未来遺産」に選ばれたというものです。記事にも書かれていた「熊谷市ムサシトミヨをまもる会」の活動が当時も今もしっかりと続いているのは心強いことです。

他に、荒川の支流を訪ねる、というシリーズもありました。これはとびとびに掲載されており数は少ないのですが、入間川や赤平川が紹介されています。No.24に掲載の中津川もそのひとつです。林業が盛んだったころ、中津川には木材を下流に押し流す鉄砲堰が各所に設けられていたと伝わる、とあります。鉄砲堰はかわはく第一展示室のメイン展示物です。続くNo.25には鉄砲堰の復元と記念放流の記事があり、この頃には放流のイベントが開催され、当時の様子が垣間見られたのだと羨ましい気がします。現在放流イベントは行われておらず、大山沢に復元された鉄砲堰の跡が残っているのみです（かわはく展示室の鉄砲堰は貴重なものともいえますね、まだの方は是非ご覧ください）。また中津川の記事には現在、森林科学館のある平坦地がかつて製材所や貯木場のあった場所で、日室（秩父）鉦山に務める人たちの社宅が建てられたということが書かれていました。今年の秋には特別展「荒川流域の鉦山と産業～地下資源の利用と人々の暮らし～」が開催予定で（次ページ参照）、日室鉦業株式会社（現株ニッチツ）による鉦山の開発のお話もあります。現在、中津川上流での採掘は行われていません。川の様子や利用の仕方はゆっくと確実に進んでいくことを改めて感じると共に、川の様子を見つめ、記録していくことは博物館の一つの大きな役割であると感じました。



他に「かわはくを支える人たち」のシリーズがあり、かわはくのスタッフとその仕事を紹介しています。No.22（2005年3月）ではミュージアムショップコパンが取り上げられていました。当時と現在の違いが何かあるかどうか、店長にインタビューしてみました。すると、当時から博物館の活動に沿った商品の販売やお客様との交流の場をつくる、という骨子は変わっていないが、飲食物が販売できなかったところ、お客様の要望もあり、飲み物や夏はアイスの販売ができるようになったということです。近在の福祉施設の商品も積極的に販売し、この夏には初めて手作りパンを置くとのこと。また、数年前から販売している工房西岡作成の手作り木工作品（生き物のモチーフ）は県外の方にも人気のようです。

かわはくの運営に関しては、博物館の再編成があり、2006年4月から名称がさいたま川の博物館から埼玉県立川の博物館に変わることがNo.25に告知されています。その後、2008年4月から運営が民間に委託されて以来、株式会社乃村工芸社の運営になっています。

かわはくだよりはその時点の企画展やイベントを案内・報告すると共に、情報やコラムなども掲載しています。時には少しふりかえって過去の情報に目を向けてみるのもよいかもしれません（過去のかわはくだよりはHPに掲載）。これからも博物館や荒川・水・人々の暮らしに関して良い情報を提供していければと思います。もし、こんなことを知りたい、記事にしてほしいということがあれば教えて下さい。リクエストに応じることもできるかもしれません。（研究交流部 森圭子）



特別展予告

「荒川流域の鉱山と産業 ～地下資源の利用と人々の暮らし～」

（会期：平成26年10月4日～11月24日）

特別展「荒川流域の鉱山と産業～地下資源の利用と人々の暮らし～」についてご紹介します。

地下資源のほとんどを海外からの輸入に頼る日本は、資源の少ない国と考えられがちです。しかし、明治から昭和中期にかけて、埼玉県内で多くの鉱山が稼行していました。関東地方最大の鉄山であった秩父鉱山、秩父山地一帯に分布するマンガン鉱山、三波川帯に付随するニッケル・クロム鉱山などです。そのほか、荒川は砂金が産出することでも知られています。また、武甲山は関東を代表する石灰岩産地として、現在も石灰岩の採掘が続けられており、セメント生産は主要な産業のひとつとなっています。

本展示では、埼玉県に存在した鉱山について、鉱石や製品を通じて紹介します。また、鉱業の発展には欠かせない、鉄道輸送との関連について、石灰岩輸送の例を中心にジオラマや写真で紹介します。

《展示内容》

1. 鉱業とはなにか

鉱業の基本的な解説です。日本各地の代表的な鉱山の鉱石や、資源の利用法などを展示します。

2. 歴史時代の鉱業

人類は古くから、様々な形で地下資源を利用してきました。埼玉県内の遺跡からも、鉄や石材などの地下資源を加工し、利用してきた形跡が多く残されています。和銅の産出や、鉄精錬遺跡からの出土品、粘土や石材の利用について紹介します。

3. 荒川流域の鉱山

荒川流域を中心に、埼玉県内で過去に操業、ま

たは現在も操業する各鉱山について、鉱石や製品を元に紹介します。

4. 県内鉱業の発展と鉄道の役割

鉱山の開発に欠かせないのは、輸送網の発達です。県内鉱業の発展には、鉄道の整備が欠かせないものでした。特に秩父地域では、秩父鉄道の開通とセメント産業の発展が密に関わっています。そのほか、セメント工場や石灰岩鉱山、深谷の日本煉瓦製造工場にも専用の鉄道が敷かれ、県内産業を支えていました。

5. 鉱山開発と自然保護

鉱山の経営には自然の開発がともないます。武甲山での自然保護の取り組みを例に、開発と保護の問題を考えます。

また同時期にはスロープ展「秩父の鉱泉」（会期：平成26年9月9日～11月30日）も開催されます。水資源の代表的な利用例のひとつである温泉、特に秩父地域に古くから存在する鉱泉「秩父七湯」を中心に展示を行います。こちらも合わせてご覧ください。

《関連イベント情報》

○10月4日(土) 砂金採り教室

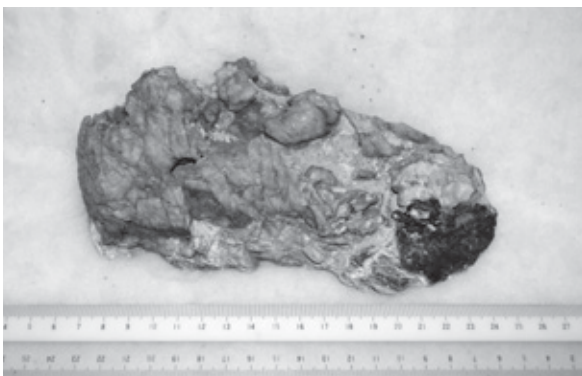
○10月26日(日) 滑石でまが玉づくり

○11月9日(日) 深谷駅から日本煉瓦専用線跡をたどるウォーキング

○11月16日(日) 講演会
「埼玉県の古代製鉄遺跡」

* 各イベントの詳細および申込み方法は、最終ページをご覧ください。

（小林 まさ代・自然の博物館）



自然銅（長瀨町） 埼玉県立自然の博物館蔵



武蔵野鉱山の亜炭層（飯能市）



かわはくGWまつり報告

毎年恒例のかわはくゴールデンウィークまつり、今年はお当地キャラも集合し、こいのぼりの泳ぐ五月晴れの中、記念撮影も楽しんでいただきました。

当館のマスコットキャラクター「カワシロウ」をはじめ、コバトン（埼玉県）、にゃおざね（熊谷市）、ふっかちゃん（深谷市）、ミムリン（美里町）、こむぎっち（上里町）が記念撮影会を行いました。

ご当地キャラによる「恋するフォーチュンクッキー」のダンスは、お子さまたちを巻き込んで大賑わいでした。

学芸員スタッフの専門を活かした「学芸員と話そう」コーナーも人気で、荒川大模型を使っての「荒川の話」、トカゲやカメの生体を展示した「爬虫類の話」、かわはく敷地内の花や昆虫を探索する「自然観察ウォーク」、「砂粒の多い土をあてようクイズ」をまじえた土の話などにも多数ご参加いただきました。

「オリジナル缶バッジ・キーホルダーづくり」のコーナーではお子さまの写真やペットの写真を

持ち込んでのお客さまが参加したり、お子さまの描いたイラストがその場で素敵なバッジになると歓声上がるなど、こちらも大盛況でした。

他にも液体チツソを使っての科学実験、魚の透明骨格標本展示と解説、化石発掘体験、ストーンペインティング、クイズラリーなども実施しました。

アフリカの民族楽器の太鼓（ジャンベ）を使ってのセッション「ジャンベを楽しもう！」は、心躍るリズムだったのではないのでしょうか。ジャンベ体験コーナーも、お祭りを大いに盛り上げました。

今後も、地域との繋がりを大切に「かわはくまつり」を、更に楽しく・ためになるお祭りイベントとして企画・実施して行きます。

（経営管理部 萩原幸人）



ふっかーゴにご当地キャラも勢揃い

コラム 夏の思い出

夏がやってきました。最近はどうだかわかりませんが、夏休みになると、涼しい山や海のほうの父親や母親の実家にでも行って虫採りや海水浴…。小さいころともうらやましかったことを思い出します。私の父の実家は寄居、母は熊谷、です。田舎に行っても日頃の生活とさほど変わりはありません。

それでも夏休みは近くの山で虫採りをしたり、川で魚釣りや水生昆虫を捕まえたりしていました。また、当時は少数ながら家の近所でも田んぼや養蚕を生業にしているご家庭があり、田んぼに入らせてもらったり、カイコにクワを与えお手伝いをさせてもらったりと今に思うと懐かしい思い出です。当然家の人と話す機会もあります。私は当時からいきもの好きだったのでおじさんやおばさんがいろんな生き物の話をしてくれました。特に若いころ山しごとをしていた「八郎おじさん」とはいろいろな話をした記憶があります。今でも覚えているものでは「やーっとジジヤキがなきはじめて、梅雨が明けたいなあ」とか「玄関にアシツルシが巢を

くっておっかなくってしょうがねえ」などです。ジジヤキやアシツルシというのはこの土地（寄居町）の方言です。今の図鑑でいうニイニイゼミのことをジジヤキ、アシナガバチのことをアシツルシと言います。今にして思えば当時のことを記録しておくべきだったと考えています。方言も地元の自然の一部だと思うからです。皆さんも図鑑に載っていない生き物の名前を記録してみませんか？

寄居町で聞いた生き物の方言（記憶より）

ワックス → カメムシ

ミンミン → ミンミンゼミ

オーシン → ツクツクボウシ

ハイッコウゾウ → セミの幼虫

オオグマン → オオスズメバチ

チョロ → カワゲラやカゲロウの幼虫

テッコバコ → ウスバカゲロウの幼虫

オバヒキ → 大きなヒキガエル

アカハラ → イモリまたはウグイのみ

（研究交流部 石井克彦）

8月

7/12/土～9/7/日

夏期企画展「ふしぎ・カッコいい 埼玉と日本の爬虫類」

7/1/火～9/7/日

スロープ展「写真で見る琉球列島の爬虫類」

1/金

かわはくであそぼう・まなぼう
かわはく開館・水の日記念「利き水体験」
時間：10：00～12：00 13：00～15：00
費用：無料

2/土

内容：利き水などをしながら、水の性質や大切さを学びます。
特別展開連イベント
爬虫類のお話①「埼玉のヘビにくわしくなろう」
講師：三保尚志氏（日本蛇族学術研究所）
時間：11：30～12：00 13：30～14：00（予定）
費用：無料
定員：各回30名
内容：アオダイショウなど、埼玉県で見られるヘビについて、生体を使って詳しく解説していただきます。

2/土

かわはく体験教室「親子地図づくり教室」
時間：9：00～12：00
費用：100円（保険料）
定員：20名 ☎
内容：地図について学んだあと、かわはく敷地内でテーマを決めた地図づくりをします。

10/日

企画展開連イベント
ヘビ皮を使った楽器、三線さんしんにふれてみよう
時間：11：30～12：00 13：30～13：50
費用：無料
定員：各回15名
内容：沖縄や奄美諸島で親しまれている郷土の楽器「三線」について、当館学芸員の解説を交えながらふれてみる体験です。

13/水～15/金

企画展開連イベント 学芸員による爬虫類のお話
時間：13：30～13：50
費用：無料
定員：各回20名
内容：当館学芸員がアオダイショウやシマヘビなどの生体を使って解説します。

21/木

たんけん！荒川教室「伝統漁法体験」
時間：10：30～12：00 14：00～15：30
費用：500円（保険料）
定員：各回40名 ☎
内容：漁協の方を講師に招いて、荒川で行われていた昔ながらの漁法（投網など）を体験します。

24/日

企画展開連イベント 爬虫類のお話②「爬虫類のふしぎ」
講師：大淵希郷氏（日本科学未来館）
時間：11：30～12：00 13：30～14：00（予定）
費用：無料
定員：各回30名
内容：爬虫類に関する様々な不思議を、生体を使ってやさしく解説していただきます。

10月

10/4/土～11/24/月・祝

特別展「荒川流域の鉱山と産業
～地下資源の利用と人々の暮らし～」

4/土

特別展開連イベント「砂金採り教室」
時間：10：00～12：00
費用：100円（保険料）
定員：20名 ☎
内容：かつては砂金が多く採れた荒川で、砂金の採集にチャレンジします。運がよければ砂金が採れるかもしれません。

25/土

かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくでハロウィン」
時間：10：00～16：00 ※材料がなくなり次第終了
費用：無料
内容：自然の素材を使って仮装してみます。写真撮影OKで、参加したお子様には缶バッジをプレゼントします。仮装して来館したお客様にはアドベンチャーシアター無料券をさしあげます。

26/日

特別展開連イベント
かわはく体験教室「滑石でまが玉づくり」
時間：13：30～15：30
費用：300円（材料費）
定員：25名 ☎
内容：滑石を削って磨いて、勾玉をつくります。

9月

9/9/火～11/30/日

スロープ展「秩父の鉱山」

6/土

たんけん！荒川教室「荒川ずぶぬれウォーク②」
時間：10：00～14：00
費用：500円（保険料）
定員：15名 ☎
内容：荒川の本流をかわせみ河原～玉淀河原まで遊びます。

7/日

かわはくであそぼう・まなぼう
「お月見体験・月よりダンゴ」
時間：13：30～15：30
費用：無料
内容：かわはく周辺に伝わる、お月見の風習の体験をします。

14/日

かわはく体験教室「顕微鏡で虫を観察しよう」
時間：13：30～15：30
費用：100円（保険料）
定員：15名 ☎
内容：昆虫を捕まえて、体のつくりを顕微鏡で観察します。

11月

3/月

荒川ゼミナールⅡ「いろんな荒川を見に行こう」
青空教室「荒川をとことん歩く2」
時間：10：00～16：30
集合：秩父鉄道と銅黒谷駅（予定）
費用：100円（保険料）
定員：20名 ☎
内容：主に荒川の右岸をとことん歩いて川とその周辺の景色の移り変わりを楽しみます。第二弾です。

8/土

かわはく体験教室「木の実草の実図鑑をつくらう」
時間：13：30～15：30
費用：100円（保険料）
定員：20名 ☎
内容：この時期の木の実草の実をさがします。

9/日

特別展開連イベント
青空教室「深谷駅から日本煉瓦専用線跡をたどるウォーキング」
時間：10：00～15：00（予定）
集合：深谷駅北口
費用：100円（保険料）
定員：20名 ☎
内容：日本煉瓦が使っていた専用線跡を歩き、日本煉瓦の史料館を見学します。

14/金

かわはくであそぼう・まなぼう「木の実遊び」
時間：10：00～12：00 13：00～15：00
費用：無料
内容：どんぐりコマやどんぐりヤジロベエづくりを体験します。

14/金

かわはく秋まつり
時間：10：00～16：00
内容：一日たのしく遊べるイベントを実施します。

16/日

特別展開連講演会「埼玉県の古代製鉄遺跡」
講師：赤熊浩一氏（(公財)埼玉県埋蔵文化調査事業団）
時間：13：30～15：30
費用：無料
定員：80名 ☎
内容：古代の人々がどのように鉄を加工し利用してきたか、県内ではどこで製鉄が盛んだったのかを製鉄遺跡での発掘調査の成果をもとにご紹介します。

23/日

荒川ゼミナールⅢ「川の恵みを訪ねて」
青空教室「利根大堰を遡上するサケ」
時間：10：00～16：00
集合：秩父鉄道武州荒木駅
費用：100円（保険料）
定員：20名 ☎
内容：毎年この時期に利根大堰を遡上するサケを見に行きます。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
Eメール/web-master@river-museum.jp/

彩の国
埼玉県

2014年7月22日発行

